

第6回「としま子ども会議」 実施報告書



SDGs 未来都市としま



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和7年度
豊島区

目次

1 概要	1
(1) 目的.....	1
(2) 対象者及び参加者.....	1
参加者名簿.....	2
(3) 実施期間及び実施方法.....	3
(4) 実施内容.....	3
2 各回の実施内容	4
(1) 第1回（8月21日）.....	4
(2) 第2回（8月25日）.....	5
(3) 第3回（8月26日）.....	6
3 意見発表会	7
(1) 開催概要.....	7
(2) 開会の挨拶.....	8
(3) 子ども代表挨拶.....	9
(4) 令和7年度「としま子ども会議」実施の振り返り.....	10
(5) みんなが行きたくなるようなワクワクする図書館を目指そう!チームの発表.....	11
(6) 誰でも参加できる子どものクリエイティブ体験の場をつくろうチーム!の発表.....	12
(7) 多様性を活かした豊島区をつくろう!チームの発表.....	13
(8) 中学生・高校生チームの発表.....	14
(9) 発表テーマに関係する部署の管理職よりコメント.....	17
(10) 講評・閉会の挨拶.....	19
4 報告会	22
(1) 開催概要.....	22
(2) 報告会の様子.....	23
(3) 各課からの報告・質疑応答.....	24
(4) 参加者・保護者の皆様からの感想.....	41
(5) 来年度へ向けて.....	44
5 関連資料	45
(1) 豊島区子どもの権利に関する条例.....	45
(2) としま子ども会議実施要綱.....	50

1 概要

(1) 目的

「豊島区子どもの権利に関する条例」第20条第4項に基づき、子どもたちが区政などについて話し合い、意見を表明する場を設けることで、区政に子どもの意見を反映するよう努めるとともに、「児童の権利に関する条約」や「豊島区子どもの権利に関する条例」に定める子どもの意見表明や意見形成、社会参画の支援を資することを目的として実施する。

「豊島区子どもの権利に関する条例」第20条第4項

区は、次代を担う子どもの意見を区政に反映するよう努め、子どもの意見を聴き、話し合う場として、としま子ども会議を開催しなければなりません。

(2) 対象者及び参加者

区内に在住または在学の概ね10歳（小学校4年生）～18歳までの子ども若者を対象に公募した。区内の小・中学校および高等学校等へ参加者募集用のチラシを配付するとともに、広報としま6月15日号や区ホームページにて募集案内を掲載。6月25日を締め切りとして参加者を募集した。



「としま子ども会議」参加者募集！

豊島区や区の取り組みに関するテーマについて、仲間のみならず大人の方々に発表します！ぜひ、一緒に参加してみませんか？

対象 区内在住・在学の概ね10歳(小学校4年生)～18歳の子ども・若者 25名程度

内容 グループに分かれて豊島区について話し合ったり、必要に応じて意見をまとめます。まとめた意見は区長さんや大人の方々に発表します。

日時 1. 会議 8月21日(木曜日)、25日(月曜日)、26日(火曜日) 2. 発表会 9月13日(土曜日) 3. 報告会 1月11日(日曜日)

場所 1. 会議・報告会 豊島区役所本庁舎内の会議室 2. 発表会 豊島区議会 議場(予定)

★参加方法★ 6月25日(水曜日)までに、申込フォームからお申込みください。 ※希望者が多い場合は抽選となりますので、あらかじめご了承ください。

詳しい日時やテーマ、昨年までの開催の様子を確認するには、区HPをご覧ください。

SDGs未来都市としま 豊島区 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【連絡先】 豊島区 子ども家庭部 子ども若者課 管理・計画グループ 03-4566-2471

小学生用募集チラシ



令和7年度 「としま子ども会議」 参加者募集！

「としま子ども会議」は、豊島区や区政に関するテーマについて参加者同士で話し合い、そこで出た意見を区長や大人の方々に発表する取り組みです。ぜひ、みなさんの思いや声を聞かせてください！

詳細

対象 豊島区在住または在学の概ね10歳(小学校4年生)～18歳の子ども・若者 ※定員予定：25名程度

日程 ①会議 8月21日(木)、25日(月)、26日(火) ②発表会 9月13日(土) ③報告会 1月11日(日)

場所 ①会議・報告会：豊島区役所内会議室 ②意見発表会：豊島区議会 議場(予定)

費用 参加費無料(会議参加や活動に必要な交通費は参加者負担)

申込 申込フォームからお申込みください (参加者多数の場合は抽選となります) [こちら](#)

応募期限 令和7年6月25日(水)

詳しい日時やテーマ、昨年度までの開催の様子を確認するには、区HPをご覧ください。

SDGs未来都市としま 豊島区 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【問い合わせ】 豊島区 子ども家庭部 子ども若者課 管理・計画グループ 03-4566-2471

中学生以上用募集チラシ

《令和7年度参加者》※五十音順

氏名	フリガナ
浅利 芽依	アサリ メイ
石井 美璃亜	イシイ ミリア
乾 維希	イヌイ マサキ
今井 凧	イマイ ナギ
大舘 円佳	オオダチ マドカ
奥谷 蘭	オクタニ ラン
久住 葵	クスミ アオイ
齋藤 夜空	サイトウ ヨゾラ
佐川 琳香	サガワ リンカ
櫻井 麻操	サクライ マアヤ
竹田 裕紀	タケダ ユキ
竹田 善悠	タケダ ヨシヒサ
辻 咲優奈	ツジ サユナ
辻 優芽果	ツジ ユメカ
寺師 明希	テラシ アキ
寺師 優希	テラシ ユキ
東坂 明憲	トウザカ アキリ
道傳 茜	ドウデン アカネ
中沢 千里	ナカザワ センリ
中溝 麟	ナカミゾ リン
中村 慧琳	ナカムラ エリン
中村 真奈	ナカムラ マナ
西川 楓花	ニシカワ フウカ
橋本 夏歩	ハシモト ナホ
細谷 真央	ホソヤ マオ
本田 巴奈	ホンダ ハナ
諸富 咲紀	モロドミ サキ
山崎 彩華	ヤマザキ イロハ

小学生 23 名、中学生 3 名、高校生 2 名 計 28 名

(3) 実施期間及び実施方法

令和7年8月に会議を3回実施。

9月には意見発表会、1月には報告会を開催。参集形式にて実施。

第1回会議：8月21日（木）10時00分～12時00分、13時00分～15時00分

第2回会議：8月25日（月）10時00分～12時00分、13時00分～15時00分

第3回会議：8月26日（火）10時00分～12時00分、13時00分～15時00分

意見発表会：9月13日（土）13時30分～15時30分 ※午前中にリハーサルを実施

報告会：1月11日（日）10時00分～12時00分

(4) 実施概要

昨年度に引き続き「子どもたちからの意見がほしい事柄」について事前に全庁的に募集し、以下3つのテーマ参加者を募集した。

【今年度のテーマ】

- ①日本人と外国人が、お互いの「違い」を理解し合い共に暮らしていくにはどうしたらいいか考えよう！
- ②誰でも参加できる子どものクリエイティブ体験の場をつくろう！
- ③どうしたら図書館の利用者が増えるか考えよう！

また、今年度は中学生と高校生からも一定数の申し込みがあったため、「小学生」と「中学生・高校生」を分けた形でチーム編成をした。

テーマに関係する区職員に職員ファシリテーター研修を実施し、各チームに「職員ファシリテーター」として配置した。職員ファシリテーターが、区の取組等の助言や発表用資料作成のサポート等を行って進めた。

9月に意見発表会を議場で開催し、会議で考えたことや話し合った成果を発表した。1月には報告会を開催し、各チームの担当課から、子どもたちの意見を踏まえた検討状況を参加者へ報告した。また、意見発表会および報告会では、音声認識や自動翻訳を活用したコミュニケーション支援アプリ「UD トーク」を用いて、参加者や観覧者も言語や障害の有無等に問わず内容が共有できる環境を整備した。

実施にあたっては過去5回の「としま子ども会議」に続き、幅野裕敬氏（NPO法人SLC代表）がコーディネーターとして会議の進行や全体統括を務めた。

2

各回の実施内容

第1回（8月21日）10時～12時、13時～15時

まず、コーディネーターから「としま子ども会議」について説明しました。その後各テーマの詳細について担当職員から説明し、子どもたちの希望を聞いてチーム分けを行いました。

また、初回ということで参加者の皆で自己紹介やアイスブレイクの時間をとりながら、コミュニケーションを深めました。

午後には、チームごとに分かれて現場見学や意見交換を行いました。



「としま子ども会議」についての説



各テーマの詳細について説明→チーム分け



現地見学



チームごとに分かれて意見交換

<参加者の感想>

- ・初めてのとしま子ども会議でいろいろ不安なことはたくさんあったけど、しっかりテーマも決め、そのテーマにそってしっかり考えることができたのでよかったです。
- ・最初もっと冷たい空気が流れる場所だと思っていたけど、自己紹介の時にみんなが笑っていたのでそんなことないんだなあと思いました。
- ・現地見学をしたことで、初めて知ったことたくさんあっておもしろかったです。
- ・担当の課の職員の方に直接テーマの話を聞くことができたので、チームが決めやすかったです。
- ・自分でも思いつかないような意見がたくさんでてびっくりしました。「なるほど！」と思うような意見もたくさんありました。

第2回（8月25日）10時～12時、13時～15時

第2回では、全体で進め方の確認をした後に、前回の活動を振り返りながら、チームごとに分かれて意見交換を行いました。付箋やワークシートに意見を書き出しながら、「豊島区でどのようなことを実現したいのか」「なぜそう思ったのか」を深堀していきました。



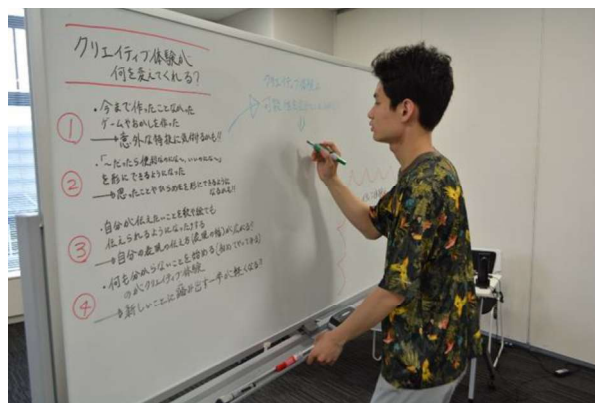
前回の活動をチームごとに振り返り



意見交換の様子



アイデアや提案を考え中



アイデアや提案内容をホワイトボードに整理

<参加者の感想>

- ・今回は、みんなとの仲も深められてとっても楽しかったです。
- ・自分の意見もちゃんと言えて良かったです。次回も協力してがんばります。
- ・アイデアを考えてどうするか考えるのが難しかったです。
- ・今回は意見をまとめたりして、みんなも楽しそうで、次回はパネルづくりをがんばってやりたい!!
- ・今日は、アイデアのまとめとパネル作成の準備をしました。みんなの意見を尊重できました。
- ・前回よりなんか大変で難しかったけど、なんか楽しかった。
- ・みんなと仲を深められた。発表するのがとても楽しみになった。
- ・自分の意見が言えて、前回よりもとても満足しました。
- ・みんなと協力して、意見をまとめられた。パネルで書くのをがんばりたい。
- ・前回のことを深堀できました。楽しかったです!!

第3回（8月26日）10時～12時、13時～15時

第3回では、チームに分かれて発表用資料の作成を行いました。小学生チームは1枚のパネルに提案内容をまとめていき、中高生チームはパソコンをつかって提案内容をまとめていきました。役割分担をしながらみんなで協力して進める姿が見られました。

その後チームごとに発表練習を行い、最後にすべてのチームの提案内容を踏まえて、中高生チームのみで「今回のテーマが実現すると、どんな豊島区になるか？」を考えました。



発表用パネルの作成中



中高生はパソコンで作成



職員ファシリテーターと発表内容を確認中



全体で発表練習

<参加者の感想>

- ・すごく楽しかった。また友だちができた。あとパネルに書くのが楽しかった。
- ・パネル作りました。完ぺきです。
- ・自分のいけんをちゃんと言えました。本番がんばります。
- ・今日は、パネルを完成させることができ、台本もしっかりできました。次回は本番なのでいままで考えたことががんばったことを生かしてしっかりやりたいです！
- ・本番は、もっとミスをしないようにしたいし、他の人をサポートできるようにしたい。
- ・意外とスムーズに資料が書けて、今日の発表練習は緊張したけどたのしかった。
- ・自分がつたえたいことをパネルにかけてよかった。本番もがんばります！！

開催概要**(1) 日時・会場**

日時：令和7年9月13日（土） 13時30分から15時30分

会場：豊島区議会本会議場（豊島区役所本庁舎8階）

(2) 当日の出席者

■「としま子ども会議」参加者及び保護者の皆様

■「としま子ども会議」コーディネーター NPO 法人 SLC 理事長 幅野裕敬 氏

【豊島区より】

■高際みゆき 区長 ■天貝勝己 副区長 ■清野正 教育長

■活田啓文 子ども家庭部長 ■安達絵美子 子ども若者課長

【豊島区議会より】

■島村 高彦 議長 ■中澤まさゆき 子ども文教委員長

【豊島区関係課長】

■宮本敦史 多文化共生推進担当課長

■小倉 桂 地域区民ひろば課長

■宮下あゆみ 図書館課長

【職員ファシリテーター】

■多文化共生推進担当課 平沼瑞枝 係長

■地域区民ひろば課 船木みのり 主事

■図書館課 山本幸彦 係長、新里江美 主査

(3) 実施内容

発表会前半に、子どもたちが「としま子ども会議」で考えたことや話し合った成果を発表し、テーマに関係する部署の管理職から発表に対するコメントや区の方向性等を子どもたちへお話しいただいた。また、発表会後半には出席した方々による講評も行った。

開会の挨拶（高際みゆき 区長）



皆さん、こんにちは。豊島区長の高際みゆきです。今年で6回目を迎える「としま子ども会議」ですが、この取り組みは「豊島区子どもの権利に関する条例」に基づいて実施をしています。豊島区は子どもの権利に関する条例を日本の中で早い段階で作りました。子どもたちが大人と同じように自分の意見を発言し、子どもの声を聞き、豊島区の課題を変えていこうという思いで作ったものです。

この条例に基づき、子どもの声を聞くということで、豊島区はいろんなことをやっています。「子どもレター」というものもあります。子どもレターは、学校や図書館など、区内の120ヶ所に置いてあり、お手紙が書けるようになっております。それを担当職員から私のところに届きます。よく読んで、これはやっぱり変えるべきだなということは、区役所の中で相談をして、「こういうふうに変えました」、あるいは、「これはちょっと難しいけど、こんなことを考えています」というようなお返事を、今まで700通ぐらい書きました。

その他にも、「新しい学校を作るためにどうことをしていくか」ということを、地域の人たちが考える会があります。今回は初めて子どもたちのワークショップを実施し、今その学校に通っている小学生、卒業した中学生に、「どんな学校がいい？」というのを考えて提案していただきました。それを私や地域の方が聞き、これからの学校の改築プランを考えるとところに生かしていこうということも初めて試みたところでした。

さて、今年の「としま子ども会議」について報告をします。1つ目は、「池袋の東口駅前広場、どんなふうになると楽しいかな」、2つ目は、「豊島区でもっともっと楽しくスポーツをするにはどうことがいい?」、そして3つ目は、「ヤングケアラーを知ろう! 広めよう!」、この3つについて、昨年度ここで発表してもらいました。良い提案だなと思い、色々なところに反映をたく、その発表してくれた子どもたちと活動を行いました。一部を紹介すると、サンシャインシティで行われた「子育ての応援イベント」や区役所の1階にセンタースクエアにて、「多文化共生子育てフェスティバル」を行いました。ヤングケアラーについて知ってもらう取り組みを提案してくれた子どもたちも企画から入り、実際に活動してくれました。多くの方から大好評でした。

また、スポーツについても、体を動かすスポーツも良いけど、パソコンを通じて参加できるeスポーツがあれば、もしかするといろんな理由で学校に行けなくなって、おうちにいる子も対戦相手と繋がることができ、人と人の繋がりにもいいよと提案をいただきました。そこで、昨年3月に作った「スポーツ推進計画」において、初めて豊島区はeスポーツを入れました。総合体育場で、毎年「スポーツまつり」を行っていますが、そこでも、eスポーツのブースも出すことにしました。

この場でみんなから提案いただいたことに、実際の豊島区のいろんな場面で生かしています。今回、皆さんから提案をいただくテーマは三つです。どう進めたらいいか悩んでいることを、みんなに提案してもらいたいと思い、テーマを決めました。皆さんには、夏休み中でいろんなことがある中で、貴重な3日間を区役所に来てもらいながら、今日の発表のために準備をしてくれました。小学生23名、中学生3名、そして今年はなんと高校生2人も参加してくれて28名の皆さんから発表をしていただきます。緊張せずに、みんなで3日間にわたって考えたアイデアを、ぜひ私達に、元気に発表してもらえればと思います。

子ども代表挨拶（竹田裕紀さん、寺師明希さん、辻優芽果さん）

「としまこども会議」とは、子どもが区政について話し合い、意見を表明する場を設けることで、区政に子どもの意見を反映するとともに、「児童の権利に関する条約」や「豊島区子どもの権利に関する条例」に定める子どもの意見表明や意見形成の支援、また社会参画の支援に資する取り組みのことです。令和7年度の「としまこども会議」の参加者は小学4年生～18歳までの合計28名で進めてきました。豊島区や区政に関する3つのテーマについて、小学生はグループ活動として興味のあるテーマ毎に分かれて対話と会話を重ねてきました。中高生グループは個々で興味のあるテーマを分析し、問題解決のためにはどうすると良いのかアイデアを出し合い、テーマに縛られることなく意見交換をしながら、思い描く未来のためには何が必要なのか、実現するには具体的にどうすれば良いのか考えを出し合いました。



竹田 裕紀 さん



辻 優芽果 さん

今回のテーマは、「日本人と外国人が、お互いの『ちがい』を理解し合い、共に暮らし国はどうしたら良いか考えよう！」、「誰でも参加できる子どものクリエイティブ体験の場をつくらう！」、「どうしたら図書館の利用者が増えるか考えよう！」の3つでした。これらのテーマは豊島区がこれから10年で力を入れていく項目に入っているものであり、そのことを知らなかったのが、豊島区を知る新たな視点を持つ事ができました。そして、これまで学校で学んで得た知識を活かしたのがとてもよかったです。

私たちはそれぞれのテーマに沿ってどうすれば良いのか色々な視点からみんなで考えました。世代を超えた意見交換では同じチームの先輩方のまとめ方がわかりやすくとても勉強になりました。話し合いの場で自分の思いを言葉に出せない時に、としまこども会議コーディネーターの幅野さんがアシストしてくださったりして、自分の意見を出し易い雰囲気作りや言葉の選び方を誘導してくださり、毎回、とても有意義な意見交換ができていました。この場をお借りして感謝申し上げます。それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。



寺師 明希 さん

令和7年度「としま子ども会議」実施の振り返り（NPO 法人 SLC 代表理事 幅野裕敬 氏）

私からは、今年度のとしま子ども会議の振り返りということで少しお話させていただきます。としま子ども会議は、区の皆さんから課題を提示いただいて、子どもたちと各ファシリテーターの皆さんとで話し合い、相談をしながら、解決策を議論していくということをやっています。具体的には、各課の職員ファシリテーターの皆様から「子どもたちにどのような課題があって、どのような意見がほしいのか」ということをお話をいただきまして、自分の考えたいテーマを一つ選んでいただいて、チームで発表をしていただいております。実際の現場に行ってみたり、発表の資料作りをしたり、インタビューをしながら課題の認識を深める活動を行い、自分たちもどんなことが具体的にできるかということを考えてくれています。最終日は意見発表の練習をし今日を迎えています。



今回、子どもたちの議論の様子を聞いていると、二つの大きな視点があったと思っています。どのテーマでも、「自分たちに必要な場というのは何だろう」というなことを考えていたかなと思います。例えば、多文化共生について、学校ではどんなことができるか、仲良くなっていくにはどんな場が必要だろうみたいなことをかなり深く考えてくれていたと思っています。

もう一つが「友達どう生活するか」という視点が、子どもたちにも身近な部分かなと思います。多文化共生においては仲良くなっていくために、その子とどんなふうに生活をしていくかどんな活動をしていくか、どうやって遊んでいくかみたいなことも含めて考えてくれていました。図書館も区民ひろばも子どもたちの放課後の生活に直結をしますので、どうやって自分たちの生活の動線の中に、含めていかということも一生懸命考えてくれていたと思っています。

また、今回は初めての試みが一つございます。中高生が今回過去最多で5名参加をいただいておりますので、せっくなので中高生で一つチーム作りましょうということで作りました。部活や塾がある中でなかなか大変だったかなと思いますが、短い時間の中で一生懸命まとめてくれていました。中高生は、小学生チームからまた一段ハードルを上げさせてもらいまして、各課への具体的な提案を考えることはもちろんですが、その3テーマの課題が解決されることによって、豊島区がどう変わるのかということで、大きなテーマの一つを考えてもらっています。最後に子どもたちが発表してくれますので、楽しみに待っていただければと思います。

中高生チームは特にたくさん悩んでくれましたけども、一つの課題に対して答えは一つだけではないなということを議論をいただく中で「この人に対しては、こういう解決策だと難しい」などをたくさん考えていただきました。そのような流れとまた繋がっていきますけども、意見表明の場ということで今回の会がございしますが、この場だけではなくて、今日含めて4日間の全ての工程の中で子どもたちの意見をファシリテーターの皆さんにしっかり聞いていただきました。そこも含めて意見表明の場だったなというふうに感じています。うまくまとまらなかったところもあったかもしれませんが、グループワークの中で職員ファシリテーターの皆さんがうまく拾っていただきながら進めていただいておりますので、ぜひそういったところも後ほど聞いていただければと思います。

今日は、子どもたちの言葉をぜひ温かく聞いていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

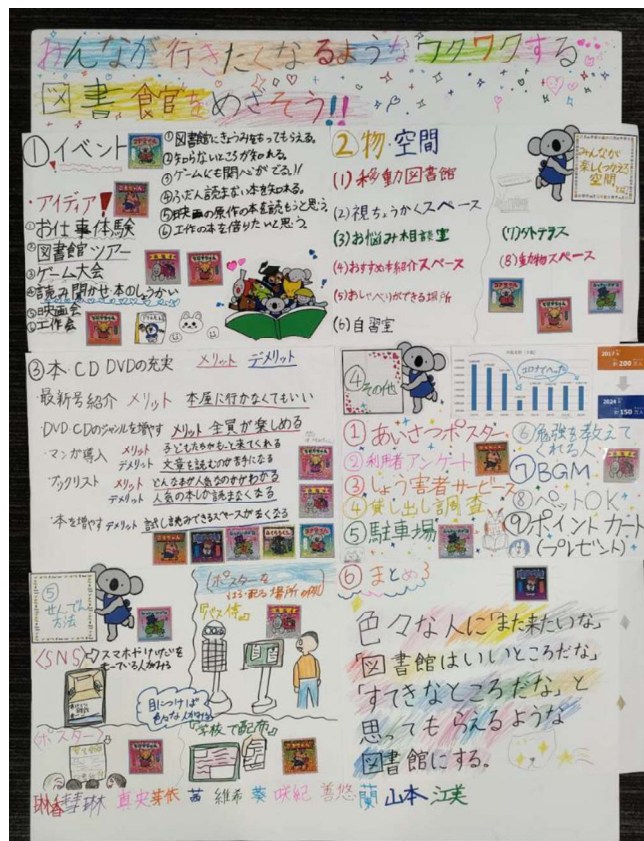
みんなが行きたくなるようなワクワクする図書館を目指そう！チーム



図書館チームの皆さんと職員ファシリテーターの山本係長、新里主査

【発表用資料】

子どもたちの提案 一部紹介



- ・図書館で映画を見れるようにする。
- ・図書館におしゃべりができる場所をつくる。
- ・図書館に屋外テラスを作ったら良いと思う。
- ・動物も入れるスペースをつくる。

～職員ファシリテーターのコメント～

図書館へたくさんの意見を出してくれて、どうもありがとうございます！！直接みなさんの意見を聞ける、貴重な機会となりました。みなさんの意見を、これからもどんどん形にしていきます。また、豊島区立図書館に遊びに来てください！
また、つらいことがあっても、その純真な心を失わないようにしてください。

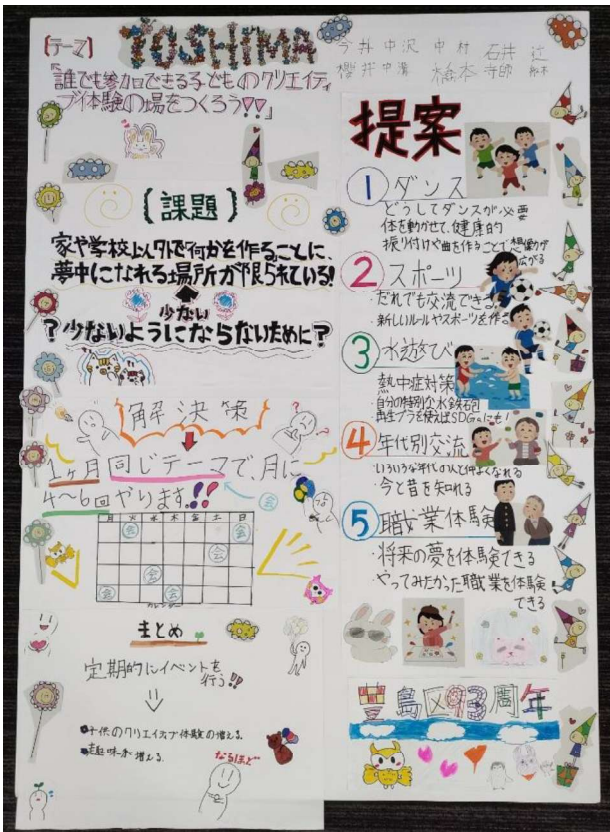
誰でも参加できる子どものクリエイティブ体験の場をつくろう！チーム



地域区民ひろばチームの皆さんと職員ファシリテーターの船木主事

【発表用資料】

子どもたちの提案 一部紹介



- ・振り付けや曲等作って、オリジナルダンスをつくる。
- ・だれでも交流できる新しいスポーツやルールをつくる。
- ・区民ひろばで料理やプログラミングをできるようにする。
- ・将来の夢を体験や、やってみたかった職業を体験できる。

～職員ファシリテーターのコメント～
 「クリエイティブ体験」という抽象的なテーマにもかかわらず、グループワーク初日からたくさんの具体的なアイデアを出し、短い時間の中で発表の役割分担やボードの作成など自主的にどんどん進めていく姿を見て、とても頼もしく、嬉しく思いました。報告会でも、区からの報告を受けて様々な意見や新たなアイデアをもらいました。いただいた意見を踏まえ、だれでも参加できるクリエイティブ体験の場を作っていきたいと思います。

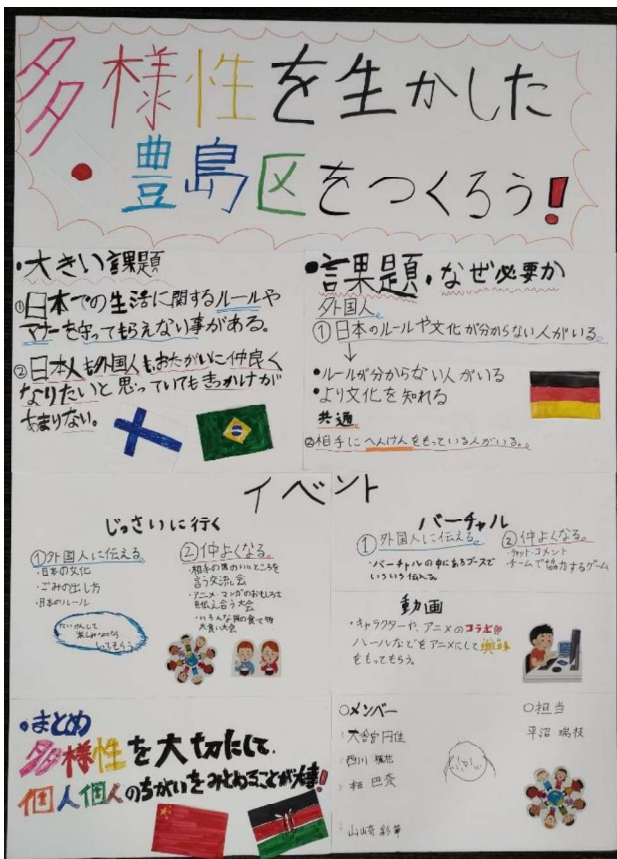
多様性を活かした豊島区をつくらう！チーム



多様性チームの皆さんと職員ファシリテーターの平沼係長

【発表用資料】

子どもたちの提案 一部紹介



- ・イベントを通じ仲良くなったり、日本の文化等を伝える。
- ・バーチャル空間を活用し仲良くなったり、ルール等を伝える。
- ・キャラクター等活用しルールを伝える動画を作成する。
- ・幼稚園や小学校等、教育機関で外国人と交流する。

～職員ファシリテーターのコメント～

「多文化共生」は、少し難しいテーマだったかもしれませんが、自分たちが日ごろ感じていることなどを改めて振り返りながら、一人ひとりが真剣に考えて意見を出してくれたことがとても嬉しかったです。ワークショップの中で「個人個人のちがいなんだ！」という一つのキーワードが出て、発表のタイトルも「外国人」という言葉は入れずに「多様性を活かした」にしたいという意見が出たときは、本当に深い部分まで考えられているなと驚かされました。皆さんからいただいたご意見は、今後にしっかり活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

中学生・高校生チーム



中学生・高校生チームの皆さん

【発表用資料】

世界を広げよう
~It's a Small World~

竹田 裕紀
齋藤 夜空
東坂 明憲
辻 優芽
寺師 果明希

図書館の利用者を増やすために

竹田 裕紀
齋藤 夜空



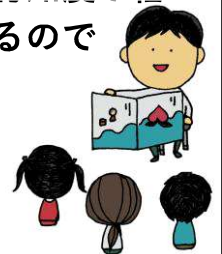
仮説

駅から遠く、近隣地域の利用者のみが利用
静かにする場所というイメージがある



仮説

イベントを開いているが認知度が低い
・対象年齢が限られているので
参加する人が少ない



具体的な提案は2つ

物理的なハードルを
取り除く

具体的な提案

区民ひろばや池袋駅に貸し出し用窓口を設置する。本と親和性のある教室などのサークル、クラブを開く。



実現できると

暑い日に疲れずに本の返却ができるようになり、塾帰りに返却することもできるようになる。



返却期限を意識せずに気軽に本を借りられるようになる。

もっとアピールしよう

具体的な提案

区立小中学校、高校にポスターを掲示する。「今月の図書館イベント」

様々な方法で発信する



対象とする年齢層を広げる

実現したら・・・

やりたかったけど知らなかったということ
これは…！ 減らすことができる



図書館に来るきっかけとなり、利用者数が増える



遊び心や好奇心を後押ししてくれる場所に
～区民ひろばチーム～
東坂明憲・辻優芽果



豊島区内にある区民ひろばの一例

〈区民ひろばの課題〉

- ・自分のアイデアを形にする機会が少ない
 - ・家や学校以外で「何かを作る」ことに夢中になれる場が限られている
 - ・完成されたプログラムに参加するだけになりがち
- など.....



〈私たちが思う課題〉

- ・せっかくある施設をフル活用できていない
- ・区民ひろばに行かなくても遊び場がある
- ・ふらっと立ち寄りそうではない
- ・友達と行く場所ではなさそう
- ・区民ひろばに若者が少ない
- ・何ができるか分からない など.....



〈私の提案〉

- ・親近感が湧くように区民ひろばごとに個性を出す
- ・料理やプログラミングを行える
- ・家族や友達とも行けるようにBBQや流し素麺ができる
- ・理科の実験が好きなだけできる
- ・遊べる施設にする



→区民の“もっとしたい”を叶える場所に！

〈実現すると〉

- ・自信がつき自分を表現する意見を言うことができる。
- ・地域と交流ができる。
- ・参加者同士で協力でき、参加する大切さがわかる。
- ・一からやることで自分でやったという達成感がある。



なぜ今の豊島区に必要？

インターネットの使用により
他者と比較することが多くなったことで

幸福度が下がっている

～子どもの居場所として～

長崎・東池袋の区内2箇所にある中高生センター「ジャンプ」は家でも学校でもない**子どもの第三の居場所**としての役割を担っているが、最近では利用者として人数的なキャパオーバーを感じている。そこで子どもにとって**ジャンプを「遊び・学びの場所」として、区民ひろばを「新しい発見と学びの場所」として**認識してもらえようとした。そうすることでジャンプと区民ひろばに利用者が分散され、「使い分け」が可能になり子どもたちの選択も増えると思う。交流企画も増やしたい。ジャンプに若者が一極集中せず区民ひろばにも若者の足が向くことで、**区民ひろばが活性化されるとともに、若者にとっても区民ひろばでの実験や料理、職業体験を通じて新たな学びの体験を引き出せる場所**になる。

お互いの「ちがい」
を分かり合うには



～多文化共生チーム～
寺師明希

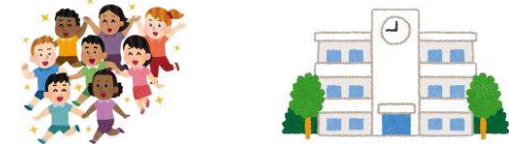
～豊島区の課題～

日本人と外国人の交流の場・きっかけが少なく、文化を知り合うことが難しい



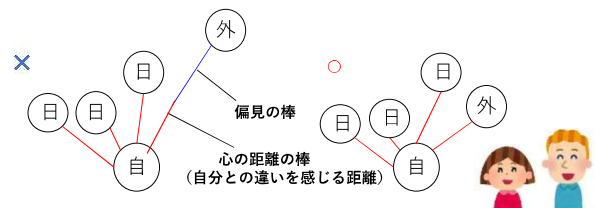
～具体的な提案～

幼稚園・小学校などの
教育機関で外国人との交流



～実現すると～

「外国人」という存在を「日本人」という存在とあまり変わらない存在として認識できるようになる



～提案の理由～

自分は昔から障害がある子たちの集まりによく行っていた

⇒小学校時代の同級生よりも障害を持っている方に関する関心が高い

⇒文化の違いに興味をもつことにも、同じことが言えるのでは

中高生チームのまとめ

子どもの世界が広がる
豊島区

なぜ今の豊島区に必要
経験や知識により、**世界を広げる！！**



新しい発見、視野が広がる、新しい友達ができる
達成感を得られる

3テーマの課題が解決されると、豊島区がどう変わる！？

中高生チームのみんなが考えてくれました！

子どもたちの 世界が広がる 豊島区

図書館チームの意見発表へのコメント



宮下 図書館課長

今日は、大変素敵なお提案をたくさんいただきまして、私はとても感動しております。そして、今すぐにでも皆さんと一緒に図書館に行き、一緒にお仕事したい気持ちになりました。本当にありがとうございました。

まず、小学生の皆さんですけれども「わくわくする図書館を目指そう！」ということでご作成いただいたパネルが大変カラフルでわくわくするような色をしていましたね。

そして、その「わくわくする図書館」を目指すために「イベントを充実させること」「物と空間を考えよう」「本やDVD、CDの充実」「挨拶ポスターやポイントカードなど作成」「PR方法」の5つのポイントを考えてくださいました。ご提案で良かったのが、メリットとその裏側にあるデメリットについても触れてくださったこと、これは私達仕事を進めていく上でも大変重要な視点なので、すごいなと思いました。そして、まさに夢が膨らむわくわくするような内容をたくさん発表してくれました。本当にありがとうございました。

また、中高生の皆様の発表では図書館利用者を増やしたいという命題をさらに深掘りしてくれました。各自が課題について踏み込んで考え、仮説を立てて提案をしてくださいました。その中で返却ポストの設置や、イベントの認知度の改善、イベントの対象者の幅を広げること等を考えてくださいました。これは、まさに今、図書館課でもホットな課題でしたので、私達も非常に考えさせられるところがありました。

皆様の発表を聞いて感じたことは“使う人の立場”に立って一生懸命考えてくれたことです。本当にありがたく嬉しかったです。新しい図書館に向けて皆さんのご意見を一つでも反映できるよう、そして今ある既存の図書館にも皆様のアイデアを生かしていけるように頑張りたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

区民ひろばチームの意見発表へのコメント

本日は、区民ひろばへのご意見・発表、本当にありがとうございます。

区民ひろばは、何でもできる場所だと思っています。また、区民ひろばは利用者を限定しておりません。“特定の人たちの場所”ではなく、“誰でも来ていい場所”です。その中で、利用者を限定しない年代別の交流ということで、おじいちゃん、おばあちゃんたちとも交流したいというような意見をいただきました。まさにそれができる場所が区民ひろばと思っています。

また、スポーツやダンス、水遊びなど、様々な区民ひろばの可能性を言及していただきました。区民ひろばは、体を思いっきり動かせる場所が限られています。豊島区には、スポーツ施設がいくつかありますので、そのような施設と連携をしながら体を思いっきり動かせる場所づくりを実現するために、これから考えていきたいと思っています。

そして、中高生センタージャンプを増やすのではなくて「区民ひろばを使ってこう！」というご提案、本当にありがとうございます。せっかくある施設なのでフル活用ができる状態にしたいと思っています。区民ひろばを、ふらっと立ち寄れる場所に、友達と行く場所に、若者がたくさん来る場所に、何ができるかわからないが何でもできる場所に、このように皆様にとって“行ってみたい場所”に区民ひろばをしていきたいと思っています。皆様のご意見をいただきながら、すぐ検討したいと思っております。今日はありがとうございました。



小倉 地域区民ひろば課長

多文化共生チームの意見発表へのコメント



宮本 多文化共生推進担当課長

日本人と外国人がお互いの違いを理解し合い、ともに暮らしていくにはどうしたらいいか考えいただき、本当にありがとうございます。

今日皆さんの発表を聞いて改めて思ったことは、やはり違いを認め合うことが本当に大事だと思いました。最初の一步としては、お互いを知ることだと思っています。そのためには、やはりお話をしたり、一緒に遊んだり、コミュニケーションを重ねていくことが一番の近道だと思います。発表の中には、外国人から見た視点、また私達日本人から見た視点、それぞれの視点から見る大切さ、こういったところも入っている部分が、本当に素晴らしいなと思いました。

豊島区は、これから目指していく10年後のまちの姿に向けて、目標や頑張っていきたい取り組みが書いてある豊島区の基本構想・基本計画のミニブックというものを3月に作りました。この中には、外国人の方が地域の中で活躍していくことが方針として書いてあり、この計画を作るときには、外国人の方からいろいろお話を伺い、そのご意見を取り入れました。

豊島区は、これからも皆様からご提案いただいたアイデアに挑戦しながら、日本人と外国人が仲良く、共に暮らしていけるように頑張っていきますので、ぜひ皆様も“違いを認め合うことの大切さ”をずっと持ち続けていていただきたいと思っています。本日は素晴らしい提案をありがとうございました。

講評（高際 みゆき 区長）



4つのチームからの発表を聞きまして、とても心強く、そして嬉しく思いました。としま子ども会議は、今年で6回目ですが、毎回、皆さんのパワーが増していると思います。重要なテーマについて、思っていたより遥かに上をいく具体的な提案をいただきました。

まず図書館チームについて。「わくわくする図書館を目指したい！」と言ってくれたのがとても嬉しく思いました。豊島区では新しい基本構想・基本計画というものを3月に作り、4月からスタートしています。その中で力を入れている中の筆頭が図書館です。発表を聞いて、素晴らしいと思ったのは、良いことばかりではなくて、デメリットもしっかり考えながら、やるべきことを考えてくれていました。今までの子ども会議ではなかったことだと思います。図書館課にはいただいたご提案を全部やってもらいたいと思います。

次に、地域区民ひろばチームについて。冒頭で「何かを子どもたちが作る場所、夢中になれる場所が豊島区は限られている」というのは、まさに現状を鋭く指摘いただいたと思います。今、豊島区で力を入れていることは子ども・若者の居場所です。学校でもない、お家でもない、もう一つの居場所等をどう作っていくかということに、とても力を入れています。具体的な提案をいただきましたが、感心したのは社会課題をきちんと認識されているということです。子どもの体力低下、熱中症のこと、それから再生プラスチックの話やSDGs、年代別の年代間の交流等、今の日本の中で大きな課題になっているキーワードがたくさん出てきて、そういうことを踏まえて、区民ひろばがどうすれば、子どもたちの居場所になるかということをご提案いただいて、本当に素晴らしいかと思いました。また、イベントに行けない人にも配慮しようと、もう一步先まで考えてくれたことに本当に感心しました。区民ひろばについても今日提言いただいたことは、全部やるという思いで臨んでいきたいと思います。

それから、多文化共生チーム。池袋は外国籍の人が増え、たばこやごみのポイ捨て等が非常に問題になっています。「ルールがわからない人にしっかり伝えなければならない」というような問題提起は、本当にその通りだと思います。そして、ルールをお伝えする中で、別の国の人と触れ合うことを通じて、日本人である私達自身も、よりいろんな文化を知るきっかけになるということを提案いただいたと思っています。加えて「外国籍の方とのイベントや交流会などを実際にどう開催するのか？」ということについても、リアルとバーチャルの両面で進めていくという視点も素晴らしいと思いました。

最後に、中高生のグループ。今回6回目にして、念願の中高生グループができ、すごく嬉しく思います。今日、中高生チームからいただいた「子どもの世界が広がる豊島区」というキーワードは来年度の主な事業や取組みを示したミニブックで必ず使います。とても素晴らしいわくわくするキーワードでした。それから3つのテーマに対し、小学生とはまたちょっと違った中高生の視点から、各テーマについて提案いただくという今回の子ども会議の構成も素晴らしかったです。

全てのチームの発表は、私が期待していた100倍良かったです。今日いただいたことは、すぐできることもあれば、ちょっと時間がかかることがあるかもしれないけれども、全部実現したいと思っています。これからも豊島区が、みんなの提案を実現できているか、ホームページなどで見てくれると嬉しいです。私からのコメントは以上です。本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

講評（島村 高彦 議長）



本日は、日頃私達がいろいろな議論を戦わせているこの議場で、たくさんの意見や提案を發表してくださいまして、本当にありがとうございました。まず図書館チームですが、「図書館というのは静かにしなければいけない場所」というようなイメージがあったかと思いますが、そうでなくて、皆さんから「図書館は静かにしていればよい場所ではない」と、はっきり言ってくれました。この力強いご意見を踏まえ、これから新しい図書館が作られてまいります。本当にありがとうございます。

また、区民ひろばについてですが、実は私が初めて議員になったと同時に、この区民ひろばを作ろうという話になりました。そのときに「この東京、そして豊島区というところは、地域のコミュニティがありそうでない」という多くの意見が出まして、そのような背景もある中で、今日の提案の中でも年代別交流、いろんな年代の人が顔を合わせて交流をするという意見が出ました。本当に今、地域の中でいろんな人が助け合っていかなければいけないのに、なかなかそれがうまくできない。何とかしたいということで多くの議員や豊島区の職員もいろいろ考えています。これから、皆さんの意見を何としても実現しようと、私達もしっかりと取り組んでまいりたいと思います。そして、多様性を生かした豊島区については「小さい頃から外国の人と馴染んでいくことが大切」という、とても良いご意見がありました。私達の年齢だと、クラスに外国の子はいませんでした。そういう環境で育つとやはり外国人と接すると身構えてしまいます。これはよくないことです。外国の方も、同じ地球と一緒に住んでいる人間です。だから最初に仲良くなるのが必要だという皆さんのご意見は、これから本当に役に立っていくと思います。大人たちだけではなく、これからも皆さんと一緒にこの豊島区を少しでも良くできるように、私たち議員も一緒に頑張っていきます。本日はありがとうございました。

講評（中澤 まさゆき 子ども文教委員長）

皆様お疲れ様でした。本日は本当に素晴らしい発表ありがとうございました。皆さんの発表を聞いて、自分では思いつかないことや、新しいことを知ることができました。また、世代が違う中で、様々な意見をまとめることも本当に大変だったと思います。課題から提案までの過程についてもとてもわかりやすく丁寧に説明をいただけてとても良かったです。まず、「みんなが行きたくなるようなわくわくする図書館を目指そう」については、本との出会いを工夫した展示イベントがあれば、図書館がもっとわくわくする場所になり、読書だけではなく、体験や交流ができる空間になり、とても魅力的な場所になると思いました。次に、「誰でも参加できる子どもクリエイティブな体験の場を作ろう」についてですが、地域に様々な体験の場があれば、自分も新しいことに挑戦したいと思います。クリエイティブな体験の場は、個人の表現の幅を広げるだけではなく、地域全体を元気にする力にもなると感じました。また、「多様性を生かした豊島区をつくろう」については、動画やアニメ、バーチャル空間などのツールを使うアイデアはとても大事な視点だと思いました。コミュニケーションを取り、相手を理解することも大事なことです。生活に直結するルールを中心に伝え、理解が深まると思っています。中高生チームについては、課題から仮説、また今後の具体的な提案で、必要性も丁寧に説明をいただき、本当にわかりやすかったです。



最後に、中高生チームのみんなが考えていただいた「子どもたちの世界が広がる豊島区」というキーワードですが、私も豊島区で生まれ育ちましたが、子どもたちの世界が広がる未来があれば、本当に豊島区はよいまちになっていくのではないかと私も思います。ぜひとも今回皆さんからご提案いただいた発表、聞かせていただいたご意見を参考にして、私たち議会と行政でしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

以上で、私からのお礼と講評とさせていただきます。本日はありがとうございました。

講評（清野 正 教育長）



皆さん大変素晴らしい発表ありがとうございました。まず、ワクワクする図書館を目指そうチームの皆さんです。教育委員会では、学校図書館だけではなく区立図書館の魅力を高めていくこと、ワクワクする場所にしていくことが大きな課題となっています。様々なイベントの工夫、移動図書館やスペースの工夫、漫画、DVD それから BGM、ペット OK など様々なアイデアをいただきました。いずれも取り組んでみたいものばかりでした。皆さんの提案をぜひ実現していきたいと思います。次にクリエイティブ体験の場を作ろうチームの皆さんです。家や学校以外で、何かを作ることに夢中になれる場所が限られている、という課題意識からのご提案でした。ダンスやスポーツなど体を動かす体験は、皆さんおっしゃったとおり、心と体の健康作りに大変役に立ちます。また水遊び、年代別交流や職業体験は、豊島基本構想・基本計画の理念である、みんながつながり、出会いと笑顔が咲き誇る憧れのまち作りにも通じる取り組みだと思います。皆さんのクリエイティブ体験をさらに充実させるために、学校の授業や活動も皆さんにとって、より楽しく、クリエイティブなものにしていきたいと考えています。多様性を生かした豊島区を作ろうチームの皆さんです。先ほどご紹介した豊島区教育大綱では、具体的な取組みとして、「障害の有無や国籍、性別等に関わらず、個々の人権を大切にし、1人1人の子どもに寄り添った教育を推進します」と謳っています。本日の皆さんの発表内容や発表する姿は、まさに、こうした教育を通じて育てたい子ども像そのものでありました。まとめにありました多様性を大切に、個人個人の違いを認めることが大事で、私も皆さんのまとめを心に刻み、これからの日々を過ごしていきたいと思います。最後に、中学生、高校生チームの皆さんです。図書館の利用者を増やすための取組み、教育機関での外国人との交流、区民のもっとしたいを叶える場所など、大人顔負けの提案の数々でした。皆さんの考えを尊重し、皆さんから学びながら、ときには教えてもらいながら社会や地域を、そして学校をより良くしていくことが大切だと思っています。

最後になりますが、現在、学校教育においては「子どもたちのエージェンシーを育む」ということが一つの大きなキーワードになっています。エージェンシーというのは、自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会をより良くしていく力、という意味があります。本日の皆さんの発表は、まさにこのエージェンシーが存分に発揮されたものであると、高く評価することができます。今後とも、豊島区のために、さらに力を発揮していただくことをお願いし、講評とさせていただきます。本日はありがとうございました。

閉会の挨拶（天貝 勝己 副区長）

今日は素晴らしい発表をありがとうございました。日頃、多文化共生、区民ひろば、図書館と今日来ている課長と、私や区長が一生懸命議論している各事業について提案いただきました。本当に今日は勇気をもらったと感じております。本当に嬉しく感じました。今日は、私から二つのお願いをさせていただきます。

1 つ目ですが、今日に至るまでチーム内で皆さんは数々の検討を重ねてきました。その中で他のメンバーの意見を大事にすることをすごく感じたと思います。この思い子ども会議の時だけでなく、学校のお友達やお家のご家族の皆様等にも、「今どういった気持ちでいるのか」ということを、日頃から感じていただきたいなと思います。

2 つ目は、今日は豊島区を中心に考えてたくさんのご提案をいただきましたが、豊島区という狭いところから、それ以上の東京都それから日本、それから世界では今勉強したことは一体どうなっているのか、例えば「他の国々はどういった図書館の運営しているのか」等ということも合わせて考えていただきたいなと思います。

皆様からのご提案につきましては、1 つでも多く実行することを約束いたしまして、私からの閉会の挨拶といた

